【平成16年12月28日 府令第109号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会の決議等若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第三項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会の決議等又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の三第二項各号に規定する会社の取締役、執行役、監査役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社となる株式交換（当該株式交換により完全子会社となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含み、委員会等設置会社である場合は代表執行役。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（平成十六年法律第七十五号）の規定による破産手続開始の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（平成十四年法律第百五十四号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産手続開始の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産手続開始等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産手続開始等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産手続開始等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産手続開始等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産手続開始等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産手続開始等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産手続開始の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券を発行するための取締役会の決議等又は株主総会の決議に係る当該取締役会の議事録等の写し又は当該株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会の決議等若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第三項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会の決議等又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の三第二項各号に規定する会社の取締役、執行役、監査役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社となる株式交換（当該株式交換により完全子会社となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含み、委員会等設置会社である場合は代表執行役。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（平成十四年法律第百五十四号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券を発行するための取締役会の決議等又は株主総会の決議に係る当該取締役会の議事録等の写し又は当該株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

【平成16年11月22日 府令第91号】 （改正なし）

【平成16年5月31日 府令第53号】 （改正なし）

【平成16年1月30日 府令第3号】 （改正なし）

【平成15年9月24日 府令第82号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会の決議等若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第三項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会の決議等又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の三第二項各号に規定する会社の取締役、執行役、監査役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社となる株式交換（当該株式交換により完全子会社となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含み、委員会等設置会社である場合は代表執行役。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（平成十四年法律第百五十四号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券を発行するための取締役会の決議等又は株主総会の決議に係る当該取締役会の議事録等の写し又は当該株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会の決議等若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第三項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会の決議等又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の二第二項各号に規定する会社の取締役、執行役、監査役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社となる株式交換（当該株式交換により完全子会社となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含み、委員会等設置会社である場合は代表執行役。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（平成十四年法律第百五十四号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券を発行するための取締役会の決議等又は株主総会の決議に係る当該取締役会の議事録等の写し又は当該株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

【平成15年5月23日 府令第59号】 （改正なし）

【平成15年3月31日 府令第28号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会の決議等若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第三項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会の決議等又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の二第二項各号に規定する会社の取締役、執行役、監査役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社　となる株式交換（当該株式交換により完全子会社　となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含み、委員会等設置会社である場合は代表執行役。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（平成十四年法律第百五十四号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券を発行するための取締役会の決議等又は株主総会の決議に係る当該取締役会の議事録等の写し又は当該株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第二項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の二第二項各号に規定する会社の取締役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

【平成14年12月24日 府令第87号】 （改正なし）

【平成14年5月22日 府令第46号】 （改正なし）

【平成14年5月22日 府令第44号】 （改正なし）

【平成14年3月28日 府令第17号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（新株予約権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、新株予約権証券又は新株予約権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第四項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第四項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　有価証券の種類及び銘柄（株券の場合は株式の種類を、新株予約権付社債券の場合はその旨を含む。）

ロ　次に掲げる有価証券の区分に応じ、次に定める事項

（１）　株券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格及び資本組入額又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

（２）　新株予約権証券

(ⅰ)　発行数又は売出数

(ⅱ)　発行価格又は売出価格

(ⅲ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅳ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅴ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅵ)　新株予約権の行使期間

(ⅶ)　新株予約権の行使の条件

(ⅷ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅸ)　新株予約権の譲渡に関する事項

（３）　新株予約権付社債券

(ⅰ)　発行価格又は売出価格

(ⅱ)　発行価額の総額又は売出価額の総額

(ⅲ)　券面額の総額

(ⅳ)　利率

(ⅴ)　償還期限

(ⅵ)　新株予約権の目的となる株式の種類及び数

(ⅶ)　新株予約権の総数

(ⅷ)　新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

(ⅸ)　新株予約権の行使期間

(ⅹ)　新株予約権の行使の条件

(ⅹⅰ)　新株予約権の行使により株券を発行する場合の当該株券の発行価格のうちの資本組入額

(ⅹⅱ)　新株予約権の行使時に社債の全額の償還に代えて新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の全額の払込みがあつたものとするときはその旨

(ⅹⅲ)　新株予約権の譲渡に関する事項

ハ　発行方法

ニ　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

ホ　募集又は売出しを行う地域

ヘ　新規発行による手取金の額及び使途

ト　新規発行年月日又は受渡年月日

チ　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

リ　預託証券の場合には、イからチまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（次号に該当する場合を除き、当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからハまで及びへからリまでに掲げる事項

ロ　前号ニ及びホに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）又は新株予約権証券の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券又は新株予約権証券を取得しようとする者（以下ニにおいて「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券又は新株予約権証券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

二の二　令第一条の四第二項（令第一条の六第二項において準用する場合を含む。）の規定により募集に該当しないこととなる新株予約権証券の取得の申込みの勧誘（令第一条の四第一項に規定する取得の申込みの勧誘をいう。）又は令第一条の八第二項の規定により売出しに該当しないこととなる新株予約権証券の売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘（法第二条第四項に規定する売付けの申込み又はその買付けの申込みの勧誘をいう。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものにつき取締役会又は株主総会の決議があつた場合

イ　銘柄

ロ　第一号ロの（２）に掲げる事項

ハ　当該取得の申込みの勧誘又は売付けの申込み若しくはその買付けの申込みの勧誘の相手方（以下この号において「勧誘の相手方」という。）の人数及びその内訳

ニ　勧誘の相手方が提出会社に関係する会社として定義府令第三条の二第二項各号に規定する会社の取締役又は使用人である場合には、当該会社と提出会社との間の関係

ホ　勧誘の相手方と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（法第三十二条第五項に規定する議決権をいう。以下ロ及び次号ロにおいて同じ。）の数（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該提出会社の総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（株式会社又は有限会社にあつては、商法第二百十一条ノ二第四項に規定する種類の株式又は持分に係る議決権を除き、同条第五項の規定により議決権を有するものとみなされる株式又は持分に係る議決権を含む。）の数（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これらの数を含む。）及び当該特定子会社の総株主の議決権（法第五十四条第一項第四号に規定する総株主の議決権をいう。）に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有議決権の数及びその総株主の議決権に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

（二の二　新設）

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

【平成13年9月25日 府令第77号】 （改正なし）

【平成13年9月25日 府令第76号】 （改正なし）

【平成13年5月1日 府令第52号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　前二項の規定は、提出会社が発行する株式であつて、その利益の配当又は金銭の分配が特定の子会社（以下この条において「連動子会社」という。）の利益の配当又は商法第二百九十三条ノ五に定める営業年度中の金銭の分配に基づき決定される旨が当該提出会社の定款で定められた株式を発行している場合における当該連動子会社に関する臨時報告書の作成及び提出について準用する。この場合において、前項中「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

４　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号（前項において準用する場合を含む。）に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

５　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

６　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

７　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

８　前項の規定は、第三項において読み替えて準用する第二項第三号に規定する特定子会社について準用する。この場合において、「提出会社」とあるのは「連動子会社」と読み替えるものとする。

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

（３　新設）

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

（８　新設）

【平成13年4月19日 府令第49号】 （改正なし）

【平成13年3月29日 府令第20号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該分割により提出会社から営業を承継し、又は提出会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該分割の目的

ハ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

七の二　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の分割に係る計画の承認又は契約の締結が行われた場合（これらの計画の承認又は契約の締結が確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該分割により連結子会社から営業を承継し、又は連結子会社に営業を承継させる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該分割の目的

ニ　当該分割の方法及び分割に係る計画又は契約の内容

十五の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

（七　新設）

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

（十五　新設）

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

【平成13年3月26日 府令第18号】 （改正なし）

【平成12年11月17日 府令第139号】 （改正なし）

【平成12年10月10日 府令第116号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する内閣府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する総理府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

【平成12年6月26日 府令第65号】

（改正後）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する総理府令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

（改正前）

（臨時報告書の記載内容等）

**第十九条**　法第二十四条の五第四項に規定する大蔵省令で定める場合は、次項各号に掲げる場合とする。

２　法第二十四条の五第四項の規定により臨時報告書を提出すべき会社（指定法人を含む。）は、内国会社にあつては第五号の三様式、外国会社にあつては第十号の二様式により、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める事項を記載した臨時報告書三通を作成し、財務局長等に提出しなければならない。

一　提出会社が発行者である有価証券（転換社債券及び新株引受権付社債券（株式買取権等が付与されている社債券を含む。以下この号において同じ。）以外の社債券、コマーシャル・ペーパー、外国譲渡性預金証書、預託証券（株券、転換社債券又は新株引受権付社債券に係る権利を表示するものを除く。）及びカバードワラントを除く。以下この条において同じ。）の募集（五十名未満の者を相手方として行うものを除く。以下この号及び第三項において同じ。）又は売出し（法第二条第四項に規定する売出しをいう。以下この号及び第三項において同じ。）のうち発行価額又は売出価額の総額が一億円以上であるものが本邦以外の地域において開始された場合

イ　株式の種類（転換社債券の場合にはその銘柄、新株引受権付社債券の場合にはその銘柄及び新株引受権付社債券である旨）

ロ　発行数又は売出数

ハ　発行価格及び資本組入額又は売出価格

ニ　発行価額の総額及び資本組入額の総額又は売出価額の総額

ホ　券面額の総額（株券の場合を除く。）

へ　発行方法

ト　引受人又は売出しを行う者の氏名又は名称

チ　募集又は売出しを行う地域

リ　新規発行による手取金の額及び使途

ヌ　発行年月日又は受渡し年月日

ル　当該有価証券を証券取引所に上場しようとする場合における当該証券取引所の名称

ヲ　転換社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほかその利率及び転換の条件

ワ　新株引受権付社債券の場合には、イ及びハからルまでに掲げる事項のほか、その利率、新株の引受権の内容、新株の引受権の行使期間及び譲渡に関する事項

カ　預託証券の場合には、イからワまでに掲げる事項に準ずる事項のほか当該預託証券に表示される権利に係る有価証券の内容

二　募集によらないで取得される提出会社が発行者である有価証券又は本邦以外の地域において行われる五十名未満の者を相手方とする募集により取得される有価証券で、当該取得に係る発行価額の総額が一億円以上であるものの発行につき取締役会若しくは株主総会の決議又は主務大臣の認可があつた場合（当該取得が主として本邦以外の地域で行われる場合には、当該発行が行われた場合）

イ　前号イからへまで及びリからカまでに掲げる事項

ロ　前号ト及びチに掲げる事項に準ずる事項

ハ　当該有価証券に令第一条の七に規定する譲渡に関する制限その他の制限が付されている場合には、その内容

ニ　株券（準備金の資本組入れ又は利益金処分による資本組入れ及び合併により発行されるものを除く。）の場合には、イ及びロに掲げる事項のほか、次に掲げる事項

（１）　当該株券を取得しようとする者（以下この号において「取得者」という。）の名称、住所、代表者の氏名、資本又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名及び住所）

（２）　出資関係、取引関係その他これらに準ずる取得者と提出会社との間の関係

（３）　保有期間その他の当該株券の保有に関する事項についての取得者と提出会社との間の取決めの内容

三　提出会社の親会社の異動（当該提出会社の親会社であつた会社が親会社でなくなること又は親会社でなかつた会社が当該提出会社の親会社になることをいう。）又は提出会社の特定子会社の異動（当該提出会社の特定子会社であつた会社が子会社でなくなること又は子会社でなかつた会社が当該提出会社の特定子会社になることをいう。）があつた場合

イ　当該異動に係る親会社又は特定子会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該異動に係る会社が親会社である場合には、当該異動の前後における当該親会社の所有に係る当該提出会社の議決権（当該親会社の他の子会社が当該提出会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ハ　当該異動に係る会社が特定子会社である場合には、当該異動の前後における当該提出会社の所有に係る当該特定子会社の議決権（当該提出会社の他の子会社が当該特定子会社の議決権を所有している場合には、これを含む。）の数及びその議決権の総数に対する割合

ニ　当該異動の理由及びその年月日

四　提出会社の主要株主の異動（当該提出会社の主要株主であつた者が主要株主でなくなること又は主要株主でなかつた者が当該提出会社の主要株主になることをいう。以下同じ。）があつた場合

イ　当該異動に係る主要株主の氏名又は名称

ロ　当該異動の前後における当該主要株主の所有株式数及びその発行済株式総数に対する割合

ハ　当該異動の年月日

五　提出会社に係る重要な災害（提出会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額から負債の総額を控除して得た額（控除してなお控除しきれない金額がある場合には、当該控除しきれない金額はないものとする。）をいう。第十七号を除き、以下この条において同じ。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該重要な災害の発生年月日

ロ　当該重要な災害が発生した場所

ハ　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ニ　当該重要な災害による被害が当該提出会社の事業に及ぼす影響

六　提出会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は提出会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該訴訟の提起があつた年月日

ロ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ニ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

六の二　提出会社が完全親会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全親会社をいう。以下この項において同じ。）となる株式交換（当該株式交換により完全子会社（商法第三百五十二条第一項に規定する完全子会社をいう。以下この項において同じ。）となる会社の最近事業年度の末日における資産の額が当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上に相当する場合又は当該完全子会社となる会社の最近事業年度の売上高が当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上に相当する場合に限る。）又は提出会社が完全子会社となる株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式交換の目的

ハ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

六の三　株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該株式移転において、提出会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ロ　当該株式移転の目的

ハ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

七　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上増加することが見込まれる合併若しくは提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上増加することが見込まれる合併又は提出会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ロ　当該合併の目的

ハ　当該合併の方法及び合併契約の内容

八　提出会社の資産の額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は提出会社の売上高が、当該提出会社の最近事業年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ロ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの目的

ハ　当該営業若しくは事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

九　提出会社の代表取締役（優先出資法第二条第一項に規定する協同組織金融機関（以下「協同組織金融機関」という。）を代表すべき役員を含む。以下同じ。）の異動（当該提出会社の代表取締役であつた者が代表取締役でなくなること又は代表取締役でなかつた者が代表取締役になることをいう。以下同じ。）があつた場合（定時の株主総会（優先出資法第二条第六項に規定する普通出資者総会を含む。）終了後有価証券報告書提出時までに異動があり、その内容が有価証券報告書に記載されている場合を除く。）

イ　当該異動に係る代表取締役の氏名、職名及び生年月日

ロ　当該異動の年月日

ハ　当該異動の日における当該代表取締役の所有株式数

ニ　新たに代表取締役になる者については主要略歴

十　提出会社に係る破産法（大正十一年法律第七十一号）の規定による破産の申立て等、民事再生法（平成十一年法律第二百二十五号）の規定による再生手続開始の申立て、会社更生法（昭和二十七年法律第百七十二号）の規定による更生手続開始の申立て、商法の規定による整理開始の申立て又はこれらに準ずる事実（以下この号、次号、第十七号及び第十八号において「破産等の申立て」という。）があつた場合

イ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該提出会社である場合を除く。）

ロ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ハ　当該破産等の申立てに至つた経緯

二　当該破産等の申立ての内容

十一　提出会社に債務を負つている者及び提出会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ロ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ハ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ニ　当該事実が提出会社の事業に及ぼす影響

十二　提出会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（財務諸表等規則第八条の四に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の損益に与える影響額が、当該提出会社の最近事業年度の末日における純資産額の百分の三以上かつ最近五事業年度における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の損益に与える影響額

十三　連結子会社（提出会社の最近連結会計年度に係る連結子会社をいう。以下この条において同じ。）に係る重要な災害（連結子会社の当該災害による被害を受けた資産の帳簿価額が当該提出会社を連結財務諸表提出会社とする連結会社（以下この条において「当該連結会社」という。）に係る最近連結会計年度の末日における連結財務諸表における純資産額（以下この条において「連結純資産額」という。）の百分の三以上に相当する額である災害をいう。）が発生し、それがやんだ場合で、当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に著しい影響を及ぼすと認められる場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該重要な災害の発生年月日

ハ　当該重要な災害が発生した場所

二　当該重要な災害により被害を受けた資産の種類及び帳簿価額並びにそれに対し支払われた保険金額

ホ　当該重要な災害による被害が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十四　連結子会社に対し訴訟が提起され、当該訴訟の損害賠償請求金額が、当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の十五以上に相当する額である場合又は連結子会社に対する訴訟が解決し、当該訴訟の解決による損害賠償支払金額が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額である場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該訴訟の提起があつた年月日

ハ　当該訴訟を提起した者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所）

二　当該訴訟の内容及び損害賠償請求金額

ホ　当該訴訟の解決の場合には、次に掲げる事項

（１）　訴訟の解決があつた年月日

（２）　訴訟の解決の内容及び損害賠償支払金額

十四の二　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式交換に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式交換の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式交換の目的

ニ　当該株式交換の方法及び株式交換契約の内容

十四の三　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転又は当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の株式移転に係る株主総会の決議があつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該株式移転において、当該連結子会社の他に完全子会社となる会社がある場合は、当該他の完全子会社となる会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金及び事業の内容

ハ　当該株式移転の目的

ニ　当該株式移転の方法及び当該株式移転に係る株主総会の決議の内容

十五　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併若しくは当該連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の合併又は連結子会社が消滅することとなる合併に係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該合併の相手会社の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容

ハ　当該合併の目的

ニ　当該合併の方法及び合併契約の内容

十六　当該連結会社の資産の額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受け又は連結会社の売上高が、当該連結会社の最近連結会計年度の売上高の百分の十以上減少し、若しくは増加することが見込まれる連結子会社の営業若しくは事業の譲渡若しくは譲受けに係る契約が締結された場合（これらの契約が締結されることが確実に見込まれ、かつ、その旨が公表された場合を含む。）

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該営業又は事業の譲渡先又は譲受け先の名称、住所、代表者の氏名、資本金又は出資の額及び事業の内容（個人の場合においては、その氏名、住所及び事業の内容）

ハ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの目的

ニ　当該営業又は事業の譲渡又は譲受けの契約の内容

十七　連結子会社（当該連結子会社に係る最近事業年度の末日における純資産額（資産の総額が負債の総額以上である場合の資産の総額から負債の総額を控除して得た額をいう。）又は債務超過額（負債の総額が資産の総額を超える場合の負債の総額から資産の総額を控除して得た額をいう。）が当該連結会社に係る最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額であるものに限る。）に係る破産等の申立てがあつた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該破産等の申立てを行つた者の名称、住所及び代表者の氏名（個人の場合においては、その氏名及び住所とし、当該破産等の申立てを行つた者が当該連結子会社である場合を除く。）

ハ　当該破産等の申立てを行つた年月日

ニ　当該破産等の申立てに至つた経緯

ホ　当該破産等の申立ての内容

十八　連結子会社に債務を負つている者及び連結子会社から債務の保証を受けている者（以下この号において「債務者等」という。）について手形若しくは小切手の不渡り、破産の申立て等又はこれらに準ずる事実があり、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上に相当する額の当該債務者等に対する売掛金、貸付金、その他の債権につき取立不能又は取立遅延のおそれが生じた場合

イ　当該連結子会社の名称、住所及び代表者の氏名

ロ　当該債務者等の名称、住所、代表者の氏名及び資本金又は出資の額（個人の場合においては、その氏名及び住所）

ハ　当該債務者等に生じた事実及びその事実が生じた年月日

ニ　当該債務者等に対する債権の種類及び金額並びに保証債務の内容及び金額

ホ　当該事実が当該連結会社の事業に及ぼす影響

十九　連結会社の財政状態及び経営成績に著しい影響を与える事象（連結財務諸表規則第十四条の二に規定する重要な後発事象に相当する事象であつて、当該事象の連結損益に与える影響額が、当該連結会社の最近連結会計年度の末日における連結純資産額の百分の三以上かつ最近五連結会計年度に係る連結財務諸表における当期純利益の平均額の百分の二十以上に相当する額になる事象をいう。）が発生した場合

イ　当該事象の発生年月日

ロ　当該事象の内容

ハ　当該事象の連結損益に与える影響額

３　臨時報告書には、次の各号に掲げる臨時報告書の区分に応じ、当該各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　第二項第一号に掲げる場合に提出する臨時報告書

イ　当該有価証券の発行、募集又は売出しにつき行政庁の許可、認可又は承認を必要とする場合における当該許可、認可又は承認があつたことを知るに足る書面

ロ　当該有価証券の発行を決議した取締役会又は株主総会の議事録の写し

ハ　当該募集又は売出しに際し目論見書が使用される場合における当該目論見書（提出会社が外国会社である場合を除く。）

二　第二項第二号に掲げる場合に提出する臨時報告書前号イ及びロに掲げる書類（この場合において、前号イ中「、募集又は売出し」とあるのは「又は取得」と読み替えるものとする。）

４　提出会社が外国会社である場合には、前項に掲げるものの外、臨時報告者に次の各号に掲げる書類を添付しなければならない。

一　当該臨時報告書に記載された当該外国会社の代表者が当該臨時報告書の提出に関し正当な権限を有する者であることを証する書面

二　当該外国会社が、本邦内に住所を有する者に、当該臨時報告書の提出に関する一切の行為につき当該外国会社を代理する権限を付与したことを証する書面

５　前二項に掲げる書類が日本語をもつて記載したものでないときは、その訳文を付さなければならない。

６　第二項第三号に規定する特定子会社とは、次の各号に掲げる特定関係のいずれか一以上に該当する子会社をいう。

一　当該提出会社の最近事業年度に対応する期間において、当該提出会社に対する売上高の総額又は仕入高の総額が当該提出会社の仕入高の総額又は売上高の総額の百分の十以上である場合

二　当該提出会社の最近事業年度の末日（当該事業年度と異なる事業年度を採用している会社の場合には、当該会社については、当該末日以前に終了した直近の事業年度の末日）において純資産額が当該提出会社の資産の総額の百分の三十以上に相当する場合

三　資本金の額（相互会社にあつては、基金等の総額。）又は出資の額が当該提出会社の資本金の額の百分の十以上に相当する場合

【平成12年3月24日 省令第19号】 （別ファイルを参照）